

■第6回懇談会での意見等への対応

	指摘・質問事項	委員	懇談会での対応	今後の対応
1	・資料4の9ページの図に記載されていない河川は、どの自治体が管理しているか。	檜原	・資料に記載しているのは県管理の一級及び二級河川である。それ以外の河川は砂防指定地内河川、もしくは市町の管理の普通河川である。	
2	・猪名川町では笹尾地区を始め、何ヶ所か浸水する箇所があり、笹尾地区は一番最初に浸水する。このような冠水や家屋被害が生じる場所を集中的に対応してほしい。 ・大雨のときに堆積した土砂を除去できるようなしくみがあればありがたい。 ・消防団が取水できるような設備の整備も併せてお願いしたい。	前岡	・局所的な浸水対策については、浸水実績のある猪名川町と協議した上で場所を抽出しており、何らかの対応をすべき場所だと認識している。上下流バランスの中でできる範囲で対策を考えていきたい。 ・土砂堆積については、優先順位をつけて、順次対応していく。消防団の取水による火災への対応については随時ご要望を聞き、対応を検討していきたい。 ・消防団の取水による火災への対応については水防上大切な問題なので、随時ご要望を聞き、対応を検討していきたい。	
3	・昨年度、南ひばりヶ丘において発生した浸水被害について、宝塚市へ対策を要望したところ、パラペットの整備等による対策を実施する予定である旨、回答があった。また、阪神東部（猪名川流域圏）地域総合治水推進計画を策定中で、計画の中には下水道整備、雨水の校庭貯留などの流出抑制対策も含まれており、今後はこの計画をもとに県、市、住民が連携し、総合治水に向けて取り組む、という回答も併せていただいている。今後、県としてこのようなことをやっていただけるのか。 ・パラペットの積み上げで部分的に準備をしているところがあるが、そこは水路自体の底が浅いので川底を掘り下げる準備ができないかと考えている。県の方から市へ助言してほしい。	久保田	・ご要望を県として市に伝える。	・当該地区の排水処理においては、道路管理者とも連携し、総合的な排水能力向上に引き続き努めていく。(宝塚市)
4	・最明寺川と寺畑前川が平行して流れている箇所について、両河川が近接している箇所にある土手が、水圧により破損しないか危惧している。	櫻井	・現況を確認する。	・現地確認の結果、両河川が最も近接している箇所においても天端幅約4mで、河川構造令に定められた必要幅を満たしていた。また著しい老朽化も見られず、健全な施設であることが確認できた。

	指摘・質問事項	委員	懇談会での対応	今後の対応
5	<p>・「地域で行う河川の清掃活動を支援する等、県域住民が主体的に川を守り育てる社会づくりや仕組みづくりを推進する」という記載があるので、是非そうしていただきたい。</p> <p>・ゴルフ橋付近の河川などで外来種が繁茂しているの、川に降りて住民活動がしやすい、はしご・階段等の整備をお願いしたい。</p> <p>・ボランティア等による外来種の運搬処理が法律により禁止されており、繁茂した外来種の収集処理に大変時間、手間がかかっている。アレチウリなどの外来種を運搬出来るような体制・制度づくりも併せて希望する。</p>	檜原	<p>・整備後の市民活動がしやすい対応については、護岸等の構造物により川に降りられなくなっている状況が散見される。護岸構造として弱点になりかねない等の問題もあるため、階段設置は難しいところもあるが、例えばタラップ、はしごの設置などの対応も考えられる。市民活動を実施するのに便利な設置場所を相談したい。</p> <p>・ゴルフ橋のあたりのごみの話については、現在県の土木事務所のほうで撤去ができるように検討を進めている。市と連携して、ごみの処理は市にお願いして、ごみの収集のほうは県で対応できないか検討している。</p> <p>・不法投棄の問題については警察との協力を得て、事情を確認しているというような状況である。</p> <p>・外来種対策は、武庫川の方でも同様の問題が出てきており、猪名川も併せて適切な処理が行えるよう取り組んでいきたい。</p>	
6	<p>・資料4、28ページの目標流量の数字は、単に上流の数字を足した数字ではないようだが、この数字は計算上の値か、何かの実績に基く値か。</p>	前岡	<p>・数字は、それぞれの川で20年に1回の洪水流量を数字で表している。川の勾配や河川の長さによって、支川で起こった洪水が猪名川本川に到着してくる時間が異なる等、色々な要素があるので、単純に足し算ではない。</p>	
7	<p>・用水路が最明寺川に接続する箇所において、より排水がしやすいよう、バイパスを整備してもらっているが、河川に対し垂直に排水している。現在より更に排水能力を向上するため、バイパス水路を斜めに接続する整備をお願いしたい。</p>	久保田	<p>・水路を管理している宝塚市に伝える。</p>	<p>・整備の方針、対策の効果や是非について検討していく。(宝塚市)</p> <p>・整備着工の際には、最明寺川の管理者である県からも技術的な指導を行うなど、縣市連携していく。</p>
8	<p>・川西市のゴルフ橋は、豪雨の際に度々浸水している。計画の中で対策の位置づけはあるか。</p>	水口	<p>・降雨時の通行規制等は河川整備計画とは別に水防対策ということで、市と危機管理室等と連携しながらやっている。実際に橋が浸水することについては、現地を再度確認させていただく。</p>	<p>・平成26年8月豪雨で欄干が被災した箇所については補修対応済み。今後は新名神の道路整備による交通の流れの変化も考慮しながら、豪雨時には引き続き水防活動で適切に対応していく。(川西市)</p>
9	<p>・多田大橋からゴルフ橋の区間において、左岸側に洞穴があった。何百年の歴史を持った洞穴なので、史跡として残していただきたい。かつて戦時中には、戦闘機を隠していたという話も聞いたことがある。</p> <p>・また洞穴にはコウモリの住処としての役割もある。コウモリは忌避される傾向にあるが、コウモリがいなくなったことにより、急に害虫による植害が発生し、森が枯れる等の現象が世界各地で報告されている。生態系の中での役割の重要性というのが非常に重要視されている側面がある。そういった事からも、洞穴は残していただくようお願いしたい。</p>	丸橋 三橋	<p>・洞穴の所在については、状況を確認させていただく。また、治水上問題がない範囲で、洞穴の保全に努めたい。</p>	<p>・多田院付近に古くからお住まいの方等にお話を伺ったところ、多田神社の北側に大きな洞穴があり、かつて日本軍も利用していたが、現在は埋められているようであるということであった。</p> <p>・右岸側道路、御社橋からホテルにかけては、昔防空壕として使っていた穴が存在しており、また、昔鉦山の坑道入り口があったという情報もあった。現地着工の際には、兵庫県立考古博物館の調査員立会の元、影響が無いか確認の上、施工を行う予定。</p>

	指摘・質問事項	委員	懇談会での対応	今後の対応
10	・最明寺川の「最」という字は、かつては「西」という表記であった。表記を修正することは可能か。	丸橋	・最明寺川の表記を変えることについては、内部で検討させていただく。	・宝塚土木内部及び県庁と協議した結果、昭和 15 年の認定時からの「最明寺川」となっており、すでに地元に対し「最明寺川」で定着していること、変更には管内図面の修正、橋名板の取り替え等が必要となる事等から、「西明寺川」への名称変更は難しいとの結論となった。
11	・銀橋下流から多田大橋まで含めて上流も整備されているが、一番狭窄部になるのは銀橋付近であり、周辺で浸水被害も度々発生している。どのような対策を考えているか。	櫻井	・現在は銀橋付近において、下流管理者（国、大阪府）と調整が整い、部分的に断面を開削しているところである。今後も最終的な計画断面の確保に向け、下流の整備状況も鑑みながら整備を進めていく。	
12	・多田神社の前等に、蛇かご・布団かごによる護岸が整備されている。自然に配慮した工法であるのかもしれないが、河川の清掃をする際、ゴミが中に引っかかり撤去が困難であるというデメリットがある。	檜原	・蛇かご・布団かごは自然に配慮した工法であるが、多田神社の前の蛇かごは、現在進めている計画が完成するまでの仮設である。工事完成時には、仮設は撤去され、上流と同様の護岸構造となる。	
13	・能勢電鉄との交差部付近に水害記念碑があるが、現在の水害記念碑ではなく、古くからある記念碑がそばに倒れているので、復旧をお願いしたい。	丸橋	・現況を確認させていただく。	・現地確認の結果、古い水害記念碑はみつからなかった。
14	・猪名川は国や県など、区間によって管轄が違うが、上流となる県管理区間を整備する上で、下流への影響が無いかが協議の上で実施しているのか。	坂井	・（委員長）県、国土交通省、大阪府の間で、上流の整備によって下流に問題が起こらないように調整し、整備を進めている。	
15	・河川の断面形状を検討する際に、できるだけ現状の低水路幅が広がらない方向で検討していただきたい。局所改良の対象として挙げられている箇所についても、環境面についても課題がある箇所が多い。改変の際には、河床の凸凹を残すなど環境に配慮し、布団かご・蛇かご等を使わずに自然の川の流れで生物の生息環境が形成されるような工夫をお願いしたい。 ・現在猪名川圏域においては、石道地区における第二名神高速道路の工事等、多くの事業が実施されており、事業に伴い多くの川岸樹林が伐採される等、環境への影響が非常に大きい。また、工事完了後は通行車両のライトによる蛍の生育環境への悪影響が懸念される。今後、河川管理者だけでなく、道路管理者、NEXCO 等とも協力し、河川・道路事業と環境を両立できるようにしていただきたい。	三橋	・河川の断面形状は、現況のみお筋や水際、河床の材料等にも配慮しながら整備をしていきたい。やむを得ず拡幅をする場合にも、現況の流れを見ながら現場で断面の工夫し、将来的に自然の力で流れが形成されるように努めていきたい。 ・様々な事業主体との勉強会を実施するなどして、環境への配慮を深めていきたい。	